

7.7 廃棄物

(1) 調査事項

調査事項は、表 7.7-1 に示すとおりである。

表 7.7-1 調査事項

ア 予測した事項	施設の稼働に伴って発生する廃棄物（灰等）の排出量
イ 予測条件の状況	廃棄物の種類及び処分（再利用・再資源化等）方法
ウ 環境保全のための措置の実施状況	評価書に示す措置を講じているか調査した。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地内とした。

(3) 調査方法

調査方法は、表 7.7-2 に示すとおりである。

表 7.7-2 調査方法

調査時点 及び 調査期間	ア 予測した事項	施設の稼働が通常の状態に達した時点から1年間とする。 (平成29年10月から平成30年9月まで)
	イ 予測条件の状況	『ア 予測した事項』と同一とする。
	ウ 環境保全のための措置の実施状況	工事の完了後の随時とする。
調査地点	ア 予測した事項	計画地内とする。
	イ 予測条件の状況	計画地内とする。
	ウ 環境保全のための措置の実施状況	計画地内とする。
調査方法	ア 予測した事項	現地調査及び関連資料の整理による方法とする。
	イ 予測条件の状況	現地調査及び関連資料の整理による方法とする。
	ウ 環境保全のための措置の実施状況	現地調査及び関連資料の整理による方法とする。

(4) 事後調査の結果の内容

ア 予測した事項

施設の稼働に伴う廃棄物の排出量等は、表 7.7-3(1)に示すとおりである。

表 7.7-3(1) 廃棄物の量

種類	排出量 (t/年)	再資源化率 (%)
主灰	11,964	4%
飛灰	6,592	0%
脱水汚泥	125	0%
合計	18,681	—

イ 予測条件の状況

廃棄物の種類は、表 7.7-3(1)に示したとおりである。

予測条件の状況として、主灰及び飛灰は、灰溶融施設へ搬送する計画であったが、平成 28 年度以降は多額の維持管理コストや東日本大震災の発生による電力のひっ迫、放射能問題などにより、灰溶融施設は休止しているため、処分方法を変更している。

処分方法については、飛灰及び脱水汚泥は、中央防波堤外側埋立処分場及び新海面処分場へ埋立処分している。主灰は、中央防波堤外側埋立処分場及び新海面処分場へ埋立処分、または、民間のセメント工場へ搬出し、セメント原料化を図っている。

セメント原料化している主灰の排出量は、表 7.7-3(2) に示すとおりである。

表 7.7-3(2) セメント原料化排出量

	排出量 (t/年)	埋立処分 (t/年)	セメント原料化 (t/年)
主灰	11,964	11,461	504

注) 端数処理の関係で合計数値が合わないことがある。

また、平成 19 年度以降の廃プラスチックのサーマルリサイクルの実施によって廃プラスチックの混入割合が予測条件の平成 20 年度の約 9%から、今回の平成 29 年度の約 19%に増加した。

ウ 環境保全のための措置の実施状況

「6 環境保全のための措置の実施状況」(p.27 及び p.28 参照) に示すとおりである。

なお、平成 29 年 10 月の本稼働から平成 30 年 9 月までの間に、廃棄物に関する住民からの苦情・問合せは無かった。

(5) 予測結果と事後調査結果との比較検討

ア 予測した事項

評価書の予測結果と事後調査結果との比較は、表 7.7-4 に示すとおり、廃棄物の排出量の合計は予測を下回った。

なお、種類別に比較すると、飛灰の排出量は予測を上回り、主灰及び脱水汚泥の排出量は予測を下回った。

これは、平成 19 年度以降の廃プラスチックのサーマルリサイクルの実施によってごみ質が次第に変わっていき、燃えやすい廃プラスチックの混入割合が予測条件の平成 20 年度の約 9%から今回の平成 29 年度の約 19%に増えたため、主灰が減少し、ろ過式集じん器で捕集される飛灰が増加したものと考えられる。また、脱水汚泥については、排ガス量が予測より少なかったため(p. 53 参照)、洗煙設備からの排出水量等が少なくなり、脱水汚泥が減少したものと考えられる。

主灰及び飛灰の資源化率については、予測時は灰溶融施設へ搬送する計画であったが、平成 28 年度以降は多額の維持管理コストや東日本大震災の発生による電力のひっ迫、放射能問題などにより、灰溶融施設は休止しているため、予測を下回った。

表 7.7-4 施設の稼働に伴う廃棄物の排出量の予測結果と事後調査結果との比較

種 類	排出量 (t/年)		資源化率 (%)	
	事後調査結果	予測結果	事後調査結果	予測結果
主灰	11,964	19,277.84	4	100
飛灰	6,592	2,911.54	0	100
脱水汚泥	125	233.91	0	0
合計	18,681	22,423.29	—	—

注) 端数処理の関係で合計数値が合わないことがある。